

Chapter

01

スズケングループは どこを目指すのか？

長期経営計画	13
取り巻く環境	14
社会課題と提供価値	15
マテリアリティ	16



長期経営計画

健康創造事業体の実現に向けて

スズケングループは、医薬品卸売事業をコアとする事業体から、健康創造の事業領域で、さまざまな社会課題の解決を通じて、生活者の健康、そして社会全体の健康に貢献するサービスを提供する「健康創造事業体」への変革を進めています。

2028年度を最終年度とする新中期経営計画は、2030年度に目指す健康創造事業体からバックキャストで策定し、前中期経営計画での基盤の構築から、本格的な成長フェーズへの転換と位置付けています。既存の卸の概念を超えた次世代卸への進化、提供価値の再定義を行う「事業ポート

フォリオの再設計」、そして「経営基盤の強化」を事業戦略の要諦とし、機能の事業化を核とした新規事業の創出により、収益力の向上を図るとともに、株主還元施策を含む資本構成の最適化を進めることで、長期的に、連結売上高3兆円以上、ROE8%を目標とし、「健康創造事業体」の実現を目指します。

計画の全体像

	2023年度	2025年度	2026年度	2028年度	2030年度
	For your next heartbeat		Change makes Challenge Challenge makes Change		
	前中期経営計画(2023-2025)		新中期経営計画(2026-2028)		長期計画
事業戦略	社会インフラとして、ヘルスケア流通事業への進化／ヘルスケアソリューション事業の確立		次世代卸への進化／事業ポートフォリオの再設計／経営基盤の強化		
利益の最大化	連結営業利益率1.5%以上の実現		連結経常利益率1.5%以上の実現		連結売上高 3兆円以上
資本の最適化	総還元性向100%以上		総還元性向100%を基準として実施DOE3.0%		
ROE	5%以上(資本コスト以上)		7%以上(資本コスト以上)		ROE 8%以上

健康創造事業体
の実現

取り巻く環境

薬価制度改革や産業再編など激変する市場環境の中で、スズケングループは社会インフラとしての使命を果たし、「健康創造事業体」の実現を目指します。



社会課題と提供価値

スズケングループは、多様化する医療・健康の社会課題と向き合い、サステナブルなヘルスケアインフラを創出することで、すべてのステークホルダーの皆さまに新たな価値を提供し続けます。

有事の発生

地震や水害、新たな感染症の拡大といった有事においても医薬品の安定供給を維持する、強靱な体制の構築が求められています。

スペシャリティ医薬品の市場拡大

希少疾病薬やバイオ医薬品、再生医療等製品など、高額で厳格な管理を必要とする医薬品が増加しており、サプライチェーンにおける流通の効率化や廃棄ロスの削減が求められています。

医療・介護従事者の人手不足と業務負担増大

介護分野における深刻な人材不足や、医療現場における業務負担の増大を背景に、デジタル技術の活用による働き方改革と生産性向上が重要な課題となっています。

偽造医薬品の流通

サプライチェーンにおける偽造品の流入防止や医薬品の安全性を確保するための医薬品の適正流通（GDP）ガイドラインに準拠した安心・安全な医薬品流通を担保することが求められています。

社会保障費の増大

高齢化の進展に伴い、国民医療費や薬剤費が増大しており、国を挙げた医療費の抑制が大きな課題となっています。

地域包括ケアシステムの進展

高齢者が住み慣れた地域で医療や介護を受けられる体制づくりが進む一方、地域ごとのニーズの多様化や地方・僻地における医療提供体制の確保が課題となっています。

ドラッグロスの解消

海外で承認された医薬品が国内で使用できない「ドラッグロス」の解消が課題となっており、患者さまの治療選択肢の確保に向けた対応が求められています。

医療・介護従事者

- 医薬品等の安定供給による診療・ケアの継続性確保
- 医薬品管理の効率化
- 業務効率化サービスの提供による負担軽減
- 流通在庫の最適化による医薬品廃棄ロスの削減

患者・家族

- 治療選択肢の拡大による医療アクセスの向上
- 調剤・服薬支援・介護サービスによる生活支援
- デジタルを活用した患者支援サービスによる利便性向上
- 健康維持・QOLの向上への貢献
- 治療・介護に伴う負担の軽減

ヘルスケアメーカー

- 医薬品等の安定供給
- 物流機能のアウトソーシングによる効率化
- 医薬品等の販売機会の拡大支援
- 海外企業の日本市場参入・事業展開支援
- 市場ニーズや現場情報の提供

協業企業

- ネットワークを活用した市場アクセスの拡張
- 事業機会の共創とサービス開発支援
- 医療現場との接点を生かした実証・展開機会の提供

地域社会

- 健康維持・増進
- 社会コストの低減
- 環境課題の解決
- 次世代の育成支援
- 自然・文化保全

従業員

- 成長と挑戦を支える機会の提供
- 安全で働きやすい職場環境の実現
- 働きがいのある職場づくり

株主・投資家

- 安定的かつ積極的な株主還元
- 適時・適切な情報開示による透明性の確保
- 企業価値の持続的な向上

社会課題

日本の医療・健康を支える社会インフラの持続可能性

スズケングループの提供価値

サステナブルなヘルスケアインフラの創出

マテリアリティ

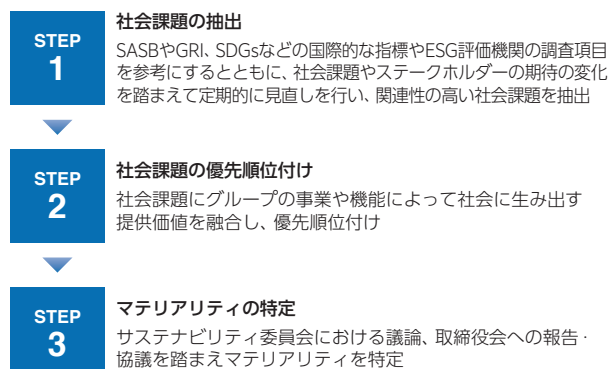
サステナビリティへの対応の変遷

スズケングループは、2009年に策定したグループ経営理念の実現に向け、事業や経営基盤に関わるステークホルダーとの対話を重視した経営を推進してきました。重要な社会課題やステークホルダーの期待を踏まえ、重要テーマやKPIを設定し、グループ一体となって取り組みを進めています。

2022年にはサステナビリティ委員会を設置し、これまで培ってきたCSRの考え方を基盤に、事業を通じた社会価値と経済価値の創出を目指す「サステナビリティ方針」を策定し、持続可能な社会への貢献と企業価値向上の両立を目指し、グループ全体で取り組みを推進しています。

また、情報開示やステークホルダーとのコミュニケーションを強化するとともに、グループ社員を対象とした「統合報告書を読む会」を開催するなど、サステナビリティへの理解浸透と日々の事業活動における実践につなげています。

マテリアリティの特定プロセス



ESG重要課題(マテリアリティ)の特定

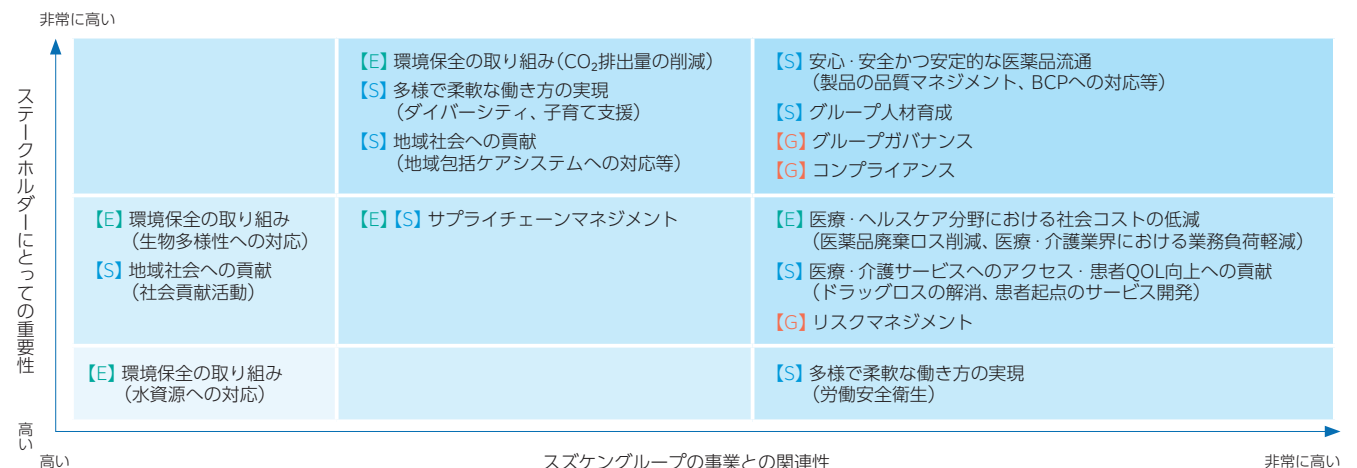
当社グループは、社会課題の解決と社会コストの低減に貢献する新しい価値を創造し続けることをパーパス（存在意義）とし、長期ビジョン達成に向けた経営課題としてESG重要課題（マテリアリティ）を位置付けています。バリューチェーン全体を見渡し、事業に関わる情勢の変化や社会動向に加え、事業活動のインパクトおよび依存関係を整理したうえで、機会とリスクを考慮しマテリアリティを特定しています。

なお、特定後も、SASBやGRIなどの国際基準やESG評価機関の評価項目に加え、投資家とのエンゲージメントや顧客との対話を通じて把握したステークホルダーの期待や要請を踏まえ、サステナビリティ委員会で協議のうえ、取締役会への報告・協議を経て定期的に見直ししています。

マテリアリティに基づく戦略とKPI

当社グループは、マテリアリティを持続的な価値創造と企業価値向上を実現するための重要な経営課題と位置付け、中期経営計画と一体でサステナビリティ経営を推進しています。マテリアリティは、2023年度に見直しを行い、中期経営計画の事業戦略と連動する10項目を特定しました。加えて、2026年度からスタートした新中期経営計画に合わせて、各マテリアリティに紐づく施策やKPI・数値目標を見直ししています。マテリアリティと事業戦略を一体的に推進し、財務・非財務の両面から進捗を管理することで、事業活動への推進力へとつなげていくとともに、グループ一体でサステナビリティへの取り組みを加速させ、持続的な成長と企業価値向上につなげていきます。

マテリアリティのマトリックス



マテリアリティ

ESG 重要課題(マテリアリティ)における考え方・主な取り組みとSDGs

	ESG重要課題(マテリアリティ)	主な取り組み	主なKPIと実績	関連するSDGs
E 環境	環境保全の取り組み	- CO₂排出量の削減 - 廃棄物の適切な管理・リサイクル - 再生利用の推進	CO₂ 排出量(Scope1+2) 2030年度2020年度比40%削減 2025年度実績：69,397t-CO₂ (2020年度比▲20.7%)	 
	医療・ヘルスケア分野における 社会コストの低減	- 医薬品廃棄ロスの削減 - 流通在庫の可視化・最適化 - 残薬の解消 - 輸配送コストの削減 - 医療従事者や患者・家族の負担軽減	医薬品廃棄ロス削減額 キュービックスシステムによる医療機関での削減額 2025年度実績：約78億円	
S 社会	安心・安全かつ安定的な 医薬品流通	- トータル・トレーサビリティによる品質管理 - グローバル基準の品質管理(GDP、GMP) - 医療流通プラットフォームの強化 - 物流センターの自動化、省人化	品質マネジメントシステム ISO9001:2015取得拠点：全メーカー・卸物流拠点	      
	医療・介護サービスへのアクセス・ 患者QOL向上への貢献	- デジタル技術を活用した患者支援サービス - ドラッグロス解消への取り組み - 患者起点の製品開発 - アンメット・メディカルニーズへの対応	GDPスペシャリスト 2025年度実績：600名 品質マネジメント監査員 2025年度実績：173名	
	グループ人材育成	- 人材育成体系の強化 - 次世代リーダーの育成 - DX人材の育成	女性管理職比率 2030年度20%以上 2025年度実績：15.2%	
	多様で柔軟な働き方の実現	- ダイバーシティの推進 - 多様な人材の確保 - 健康経営の推進 - 働きやすい職場環境づくり - グループコミュニケーション強化 - グループ提案制度の推進	男性育児休業取得率 毎年100%継続 2025年度実績：100%	
	地域社会への貢献	- 地域包括ケアシステムへの取り組み - 地方自治体との連携協定 - 地域住民の健康維持・増進への取り組み - 社会貢献活動	DX・AX人材 DX検定600点以上：1,046名 情報セキュリティマネジメント資格取得：1,156名 G検定取得：2028年度までに500名 生成AIパスポート取得：2028年度までに2,000名	
G ガバナンス	グループガバナンス コンプライアンス リスクマネジメント	- コーポレート・ガバナンス体制の強化 - コンプライアンス最上位の意識醸成 - リスク管理体制の強化 - BCPへの対応 - 品質・安全管理体制の維持・強化 - 適正な販売情報提供活動の推進	コンプライアンス研修受講率 毎年100%必須 2025年度実績：100% 内部通報件数 2025年度実績：139件	